

沼津市文化財調査報告書 第120集

## 沼津市内遺跡発掘調査報告書 2

平成29年度  
試掘・確認調査  
大泉寺畠遺跡・山神上遺跡・中原遺跡他  
史跡内容確認調査  
興国寺城跡

2020

沼津市教育委員会

## 例　言

1. 本書は、沼津市が平成 29 年度に国庫補助金等を得て市内遺跡発掘調査等事業として実施した試掘・確認調査の報告書である。  
調査箇所名については、調査当時の埋蔵文化財包蔵地範囲に準拠して呼称している。
2. 平成 29 年度の試掘・確認調査は、沼津市教育委員会事務局文化振興課が担当し、文化庁より国宝重要文化財等保存整備費補助金、静岡県より静岡県文化財保存費補助金を得て実施した。
3. 本書に係わる資料整理は、平成 31 年度の文化庁補助金(国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金)、静岡県文化財保存費補助金を得て実施した。
4. 事業関係者は以下のとおりである。

### 平成 29 年度

事業主体者	沼津市教育委員会	教育長	服部裕美子
	沼津市教育委員会事務局	教育次長	山田昭裕
事業担当者	文化振興課	課長	中島康司
		課長補佐	杉山好永
		課長補佐兼文化財調査係長	鶴田晴徳
調査担当者	岡宮北土地区画整理事業地内	副主任学芸員	木村 聰
	中原遺跡	学芸員	高尾好之
	興国寺城跡	副主任学芸員	木村 聰
	桃里地区	副主任学芸員	木村 聰

### 平成 31 年度

事業主体者	沼津市教育委員会	教育長	奥村 篤
	沼津市教育委員会事務局	教育次長	芹澤一男
事業担当者	文化振興課	課長	原 将史
		課長補佐	鶴田晴徳・杉山好永
		文化財調査係長	小崎 晋
整理担当者		学芸員	谷口哲也
		臨時嘱託	矢田晃代

5. 資料整理の実務は、沼津市文化財センターで実施し、本書の執筆・編集は谷口・矢田が担当した。
6. 本報告書の執筆にあたり、出土遺物の分類・年代観について以下の方々に御指導及び御教授をいただいた。記して深く感謝の意を示す次第である。(敬称略)  
柴垣勇夫・佐藤祐樹
7. 本書に係わる発掘調査の記録類及び出土遺物は、沼津市教育委員会事務局文化振興課(沼津市文化財センター 〒 410-0106 沼津市志下 530) で保管している。

## 凡 例

1. 方位は国家座標の真北方位で、座標値は世界測地系に準拠している。標高は、東京湾の平均海面を基準とした海拔高である。
2. 実測図の縮尺は各図に表示するとともに、出土遺物の実測図については土器 1/3・2/5、石器 1/3・4/5 を基本とした。
3. 土層・土器胎土の色調・記号は、『新版 標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局・(財)日本色彩研究所に基づいて記載し、計測は土色計 (SCR-1 第一合成株式会社製) を用いた。
4. 遺構の略号は以下のとおりである。  
TP : テストピット TRE : トレンチ STR : サブトレンチ SB : 竪穴住居址 SD : 溝状遺構  
SK : 土坑 PT : 小穴 SYO : 焼土範囲 SX : 性格不明遺構
5. 遺物観察表における推定値・復元値・残存値には（ ）を付して表記した。
6. 第Ⅱ章第3節 史跡内内容確認調査（興国寺城跡）の遺構番号については、沼津市教育委員会 2019『興国寺城跡発掘調査報告書』沼津市文化財調査報告書 第119集 に準拠した。
7. 本報告書で用いる出土遺物についての記述は、以下の文献を参考とした。  
加納俊介・石黒立人編 2002『弥生土器の様式と編年 東海編』木耳社  
縄文集落研究グループ・セツルメント研究会 2004『縄文集落研究の新地平3－勝坂から曾利へ－』  
愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 濑戸系』  
富士市教育委員会 2014『沢東A遺跡 第1次』富士市埋蔵文化財調査報告 第56集  
地域と考古学の会 2017『三遠南信周辺における中期弥生土器と交流－稻作導入期の社会－』

## 目 次

例言	
凡例	
第Ⅰ章 調査概要	
第1節 調査の概要	1
第Ⅱ章 平成29年度の調査	
第1節 岡宮北土地区画整理事業地内（大泉寺畠遺跡・山神上遺跡）	2
第2節 新貨物ターミナル及び調整池建設事業（中原遺跡）	6
第3節 史跡内容確認調査（興國寺城跡）	9
第4節 新貨物ターミナル及び調整池建設事業（桃里地区）	21
写真図版	
報告書抄録	

## 挿図目次

第1図	調査位置図	1
第2図	岡宮北土地区画整理事業地内調査位置図	2
第3図	岡宮北土地区画整理事業地内テストピット配置図	3
第4図	岡宮北土地区画整理事業地内テストピット平面図・断面図	4
第5図	岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物実測図（1）	4
第6図	岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物実測図（2）	5
第7図	中原遺跡調査地位置図	6
第8図	中原遺跡トレンチ平面図・標準土層	7
第9図	中原遺跡出土遺物実測図	8
第10図	興國寺城跡調査地位置図	9
第11図	興國寺城跡トレンチ配置図	9
第12図	興國寺城跡伝西櫓台平面図・断面図	10
第13図	興國寺城跡北曲輪トレンチ1平面図・断面図	11
第14図	興國寺城跡北曲輪トレンチ2平面図・断面図	12
第15図	興國寺城跡清水曲輪トレンチ平面図	13
第16図	興國寺城跡清水曲輪トレンチ断面図（1）	14
第17図	興國寺城跡清水曲輪トレンチ断面図（2）	15
第18図	興國寺城跡北曲輪出土遺物実測図	16
第19図	興國寺城跡清水曲輪出土遺物実測図（1）	17
第20図	興國寺城跡清水曲輪出土遺物実測図（2）	18
第21図	桃里地区調査地位置図	21
第22図	桃里地区テストピット配置図	21
第23図	桃里地区テストピット断面図	22

## 挿表目次

第 1 表	岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物観察表	5
第 2 表	中原遺跡出土遺物観察表	8
第 3 表	興國寺城跡出土遺物観察表（1）	19
第 4 表	興國寺城跡出土遺物観察表（2）	20

## 写真図版目次

PL 1	岡宮北土地区画整理事業地内テストピット 2（南より）
	岡宮北土地区画整理事業地内テストピット 8（南より）
	岡宮北土地区画整理事業地内テストピット 10（南より）
PL 2	岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物
	中原遺跡レンチ 3（南より）
	中原遺跡出土遺物
PL 3	興國寺城跡伝西櫓台（真上より）
	興國寺城跡北曲輪トレンチ（北西より）
	興國寺城跡清水曲輪トレンチ（南より）
PL 4	興國寺城跡北曲輪出土遺物
	興國寺城跡清水曲輪出土遺物（1）
PL 5	興國寺城跡清水曲輪出土遺物（2）
	桃里地区テストピット 4（東より）

第 I 章 調查概要

## 第1節 調査の概要

平成29年度は、大泉寺畠遺跡・山神上遺跡・中原遺跡・興國寺城跡・桃里地区などの試掘・確認調査を行った。

大泉寺遺跡及び山神山遺跡が含まれる地区では、岡宮北土地区画整理事業が行われており、当該事業と並行して埋蔵文化財の試掘・確認調査と本発掘調査を継続して行っている。当該年度は既存建物の撤去が完了した土地に対し、試掘・確認調査を実施した。

大泉寺遺跡は、縄文時代の石器や土器が確認される散布地で、奈良時代・平安時代の住居址や土器が確認される集落跡である。山神上遺跡は、縄文時代・奈良時代・平安時代の遺物が確認される散布地である。

中原遺跡の一部及び桃里地区は、新貨物ターミナル及び調整池の建設予定地となっている。特に中原遺跡は、平成20年度から本發掘調査を実施しており、令和元年度時点においても発掘調査と整理作業を継続している。その調査成果の一部は、『中原遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書』(2016)として刊行されている。中原遺跡の時期は、断続的ではあるが弥生時代～平安時代にわたり、弥生時代では中期の方形周溝墓が複数検出され、墓域を形成していることから近隣に同時期の集落の存在が想定される。また、古墳時代末～平安時代にかけては、住居址や掘立柱建物跡が多数検出されており、長期的に集落として機能していた様子が伺える。中世以降は、遺物包含層に土器等が混じるもの、現状で構造は確認されていない。桃里地区は、遺跡登録されていないが、中原遺跡の近接地にあたることから、新貨物ターミナル建設事業への影響を事前把握するために試掘調査を実施した。

国指定史跡である興國寺城跡については、史跡整備に先立つ確認調査として実施した。史跡整備に伴う発掘調査は平成14年度より継続して実施しており、その成果は平成29年度調査の一部を含め『興國寺城跡発掘調査報告書』(2019)にまとめられている。興國寺城は15世紀に築かれ、近世初期に廢城となる。また、興國寺城の築城以前には根古屋丸尾遺跡・根古屋清水遺跡・根古屋古墳群・中アラク遺跡・古城遺跡などが存在しており、古代以前の遺構・遺物が確認されている。



### 第1図 調査地位置図

## 第Ⅱ章 平成 29 年度の調査

### 第1節 岡宮北土地区画整理事業地内（大泉寺畠遺跡・山神上遺跡）

所在地

沼津市岡宮 787-7 外

調査面積

76m<sup>2</sup>

調査期間

平成 29 年 5 月 17 日～平成 29 年 7 月 31 日

調査原因

岡宮北土地区画整理事業

調査の概要

事業地内に所在する大泉寺畠遺跡内とその隣接地及び山神上遺跡内に 19か所のテストピットを設定し、重機による表土除去後、人力による掘り下げを行った。

調査の結果

大泉寺畠遺跡内の調査では、テストピット 1～5・8・9 から縄文土器や石器、礫が出土した。

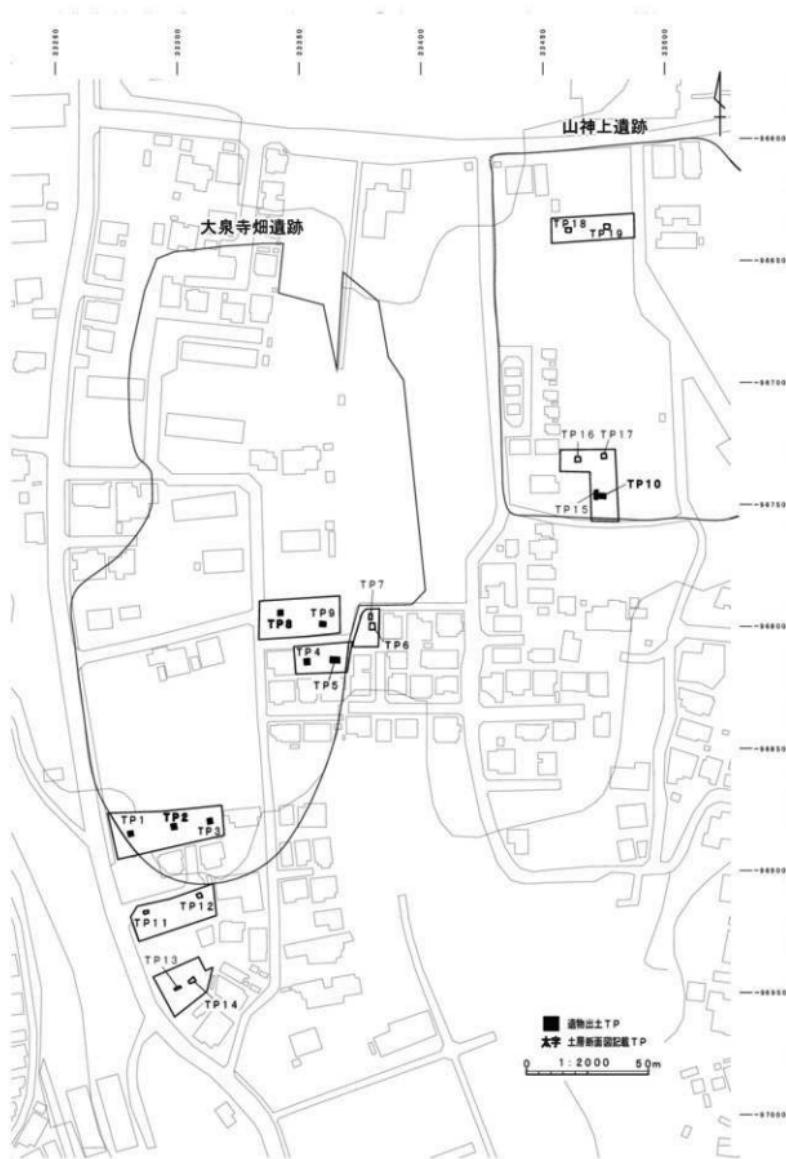
大泉寺畠遺跡隣接地（テストピット 6・7・11～14）ではいずれのテストピットからも遺構や遺物が確認できなかったことから、包蔵地の範囲は及ばないと考えられる。

山神上遺跡内では、テストピット 10・15 から縄文土器と礫が出土した。その他のテストピットからは遺物・遺構は確認されなかった。

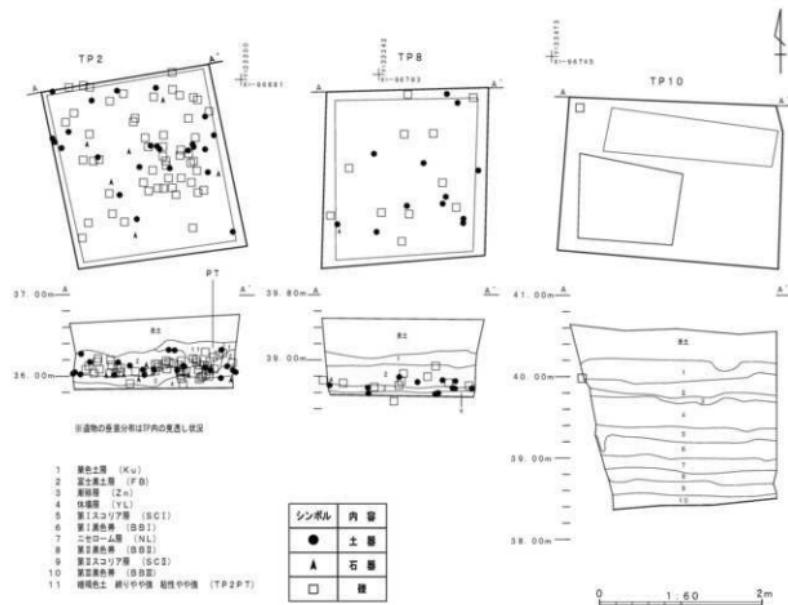
出土した遺物のうち 10 点を図示した。1～7 は縄文時代早期前葉の撚糸文土器である。8 はガラス質黒色安山岩製の石鏃、9 は奈良時代～平安時代にかけての駿東甕の口縁部である。10 は須恵器の甕の胴部で、タタキ目が認められる。



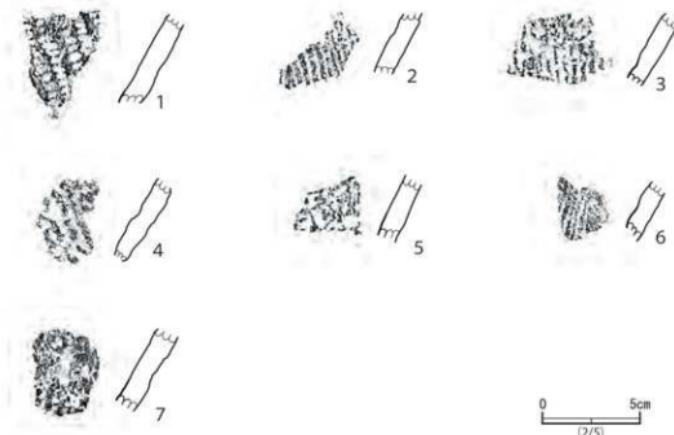
第2図 岡宮北土地区画整理事業地内  
調査地位置図



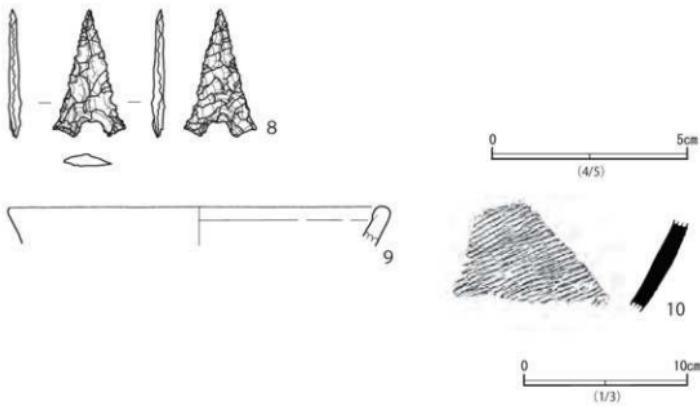
第3図 岡宮北土地区画整理事業地内テストビット配置図



第4図 岡宮北土地区画整理事業地内テストピット平面図・断面図



第5図 岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物実測図（1）



第6図 岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物実測図（2）

第1表 岡宮北土地区画整理事業地内出土遺物観察表

## 縄文土器

団固 番号	遺物 番号	出土地点	土器型式	層位	地質	基盤	残存部位	色調	備考
第5図 1	22	TP2	網布文	FB	早期前葉	白色粘子 ガラス質の岩片	深鉢	網目	SVRH-4 にしない赤褐色
第5図 2	151	TP3	網布文	FB	早期前葉	灰色粘子	深鉢	網目	SVRH-1 黒褐色
第5図 3	197	TP8	網布文	FB	早期前葉	白色粘子	深鉢	網目	SVRH-6 黒褐色
第5図 4	1	TP1	網布文	FB	早期前葉	白色粘子	深鉢	網目	SVRH-8 暗赤褐色
第5図 5	田	TP2	網布文	FB	早期前葉	白色・赤色粘子 ガラス質の岩片	深鉢	網目	SVRH-4 暗赤褐色
第5図 6	26	TP2	網布文	FB	早期前葉	白色粘子 ガラス質の岩片	深鉢	網目	SVRH-2 暗赤褐色
第5図 7	199	TP8	網布文	FB	早期前葉	白色・赤色粘子	深鉢	網目	SVRH-9 黒褐色

## 石器

団固 番号	遺物 番号	器種	出土地点	石材	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
第4図 8	203	石器	TP8	ガラス質黒色安山岩	FB	32	18	0.3	1.2	

## 土師器・須恵器

団固 番号	遺物 番号	出土地点	器種	口径 直徑 底径	地質	層位	構成	色調	残存部位	形態的特徴	調査	備考
第6図 9	168	TP9	壺	(23.5) —	やや堅 白色粘子	良好	SVRH-4 にしない赤褐色	口縁部破片	口縁部破片 口縁部は肥厚する	外面 ミコナデ 内面 ミコナデ	土師器・駆逐器 倒立平安	
第6図 10	—	複数	壺	—	白色・黒色 赤色粘子	良好	7.5 YR 3/2 灰褐色	網目	網目破片 内窓する	外面 タキナ 内面 ナデ	須恵器	

## 第2節 新貨物ターミナル及び調整池建設事業（中原遺跡）

所在地

沼津市一本松 253-1 外

調査対象範囲

228m<sup>2</sup>

調査期間

平成 30 年 1 月 15 日～平成 30 年 3 月 16 日

調査原因

新貨物ターミナル及び調整池建設事業

調査の概要

新貨物ターミナルに伴う調整池建設予定地内にあ

たり、周知の埋蔵文化財包蔵地である中原遺跡に含まれる。平成 30 年度以降に本発掘調査が予定されていることから、対象地にトレンチを 5か所設定した。

対象地に隣接する本発掘調査区から、当初想定されていなかった弥生時代中期の方形周溝墓群が確認された。そのため、次年度以降に本発掘調査を控えている当地においても、方形周溝墓が確認される可能性があり、今後の事業計画に影響を及ぼすことから、事前に確認調査を行った。

確認調査は、重機による表土除去後、人力による掘り下げを行った。

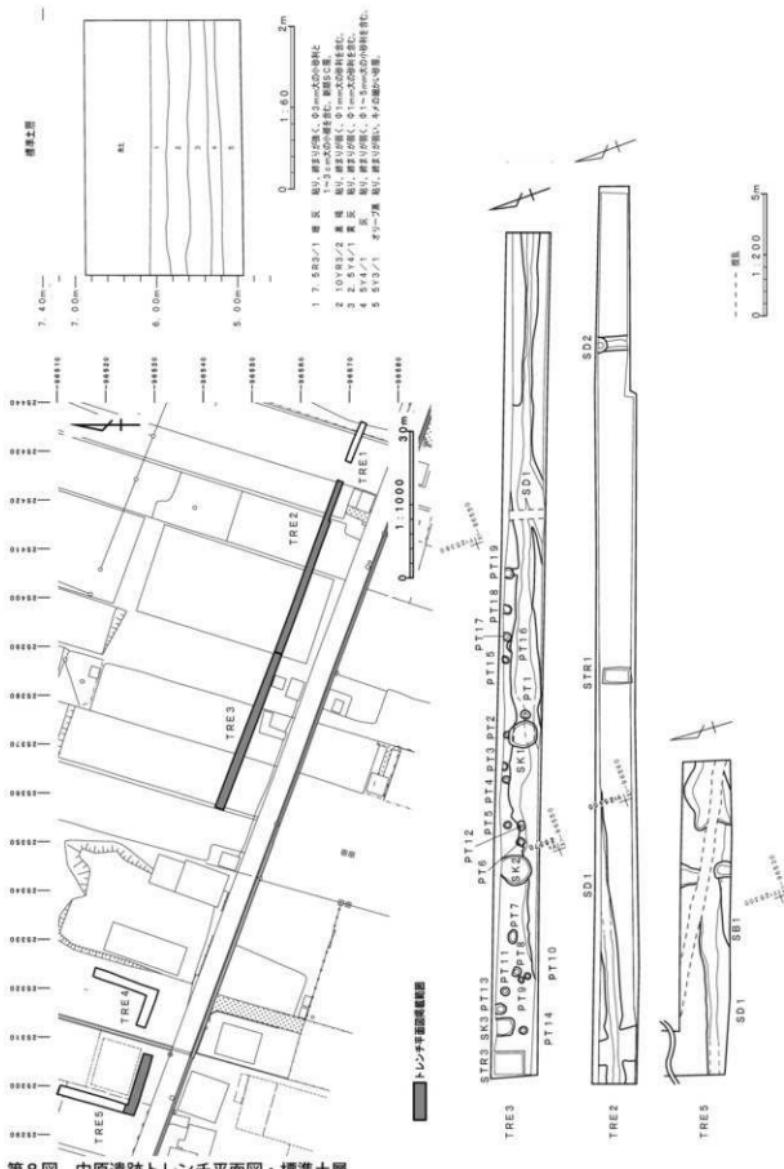
調査の結果

対象地では、方形周溝墓は検出されず、古代以降の住居址や小穴、溝状遺構が検出された。トレントレンチ 2 とトレンチ 3 では小穴 (PT1 ~ 19) や土坑 (SK1 ~ 3)、溝状遺構 (SD1・2) が検出された。トレンチ 1 とトレンチ 4 では遺構は検出されなかった。トレンチ 5 からは方形の住居址の一部が検出された。周辺で実施した本発掘調査で検出された住居址と同様の状況であることから、8 ~ 9 世紀代の住居址と考えられる。これらの確認調査において検出された遺構がどのような性格を有するかは、平成 30 年度以降に実施予定である本発掘調査の状況を踏まえて検討する必要がある。

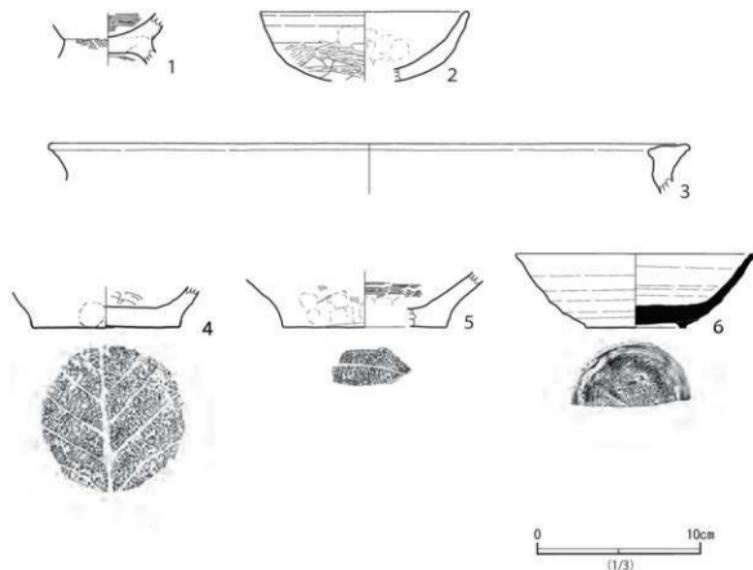
出土した遺物の一部を図示した。1 は台付甕の脚台接合部で弥生時代～古墳時代にかけてのものである。2 は 7 世紀後半の壺で、全体的に丸みを帯びており、体部外面下半にケズリを施す。3 は 7 世紀後半の壺の口縁部である。4・5 は 7 ~ 8 世紀の駿東甕の底部で、木葉痕を有する。6 は 11 世紀代の須恵器の有台碗と考えられる。



第7図 中原遺跡調査地位置図



第8図 中原遺跡トレンチ平面図・標準土層



第9図 中原遺跡出土遺物実測図

第2表 中原遺跡出土遺物観察表

図版 番号	遺物 番号	出土地点	器種	口径 器底 底径	胎土	構成	色調	保存部位	形態的特徴	調査	備考
第9図 1	5027	TP2 SD1	台付壺	— — —	やや粗い 白色粘子	やや不良	SYRS-6 SYRS-4 明赤褐色	底部～脚部	台付壺の脚部と脚部の接合部	外面 ハケメ 内面 ハケメ	土師器 円筒～古墳
第9図 2	4720	10区 SD1	井	(12.0) (4.2) —	やや密 白色粘子	良好	2SYRS-6 明赤褐色	口縁部～連部	内溝して立ち上がる	背面 上ギナデ・下ギケズリ後エガキ・ 指揮側・底部縫割か? 内面 ナデ 指揮側	土師器 7C 後半～末葉
第9図 3	—	TP3	壺	(39.6) —	やや粗い 白色粘子 白色粘子	良好	2SYRS-4 にらみ赤褐色	口縁部	口縁部は肥厚する	背面 ヨコナデ 内面 ヨコナデ	土師器 7C 後半
第9図 4	—	TP3	壺	— (2.4) 8.0	やや粗い 白色粘子	良好	SYRS-6 赤褐色	連部	半透の底面から脚部は外反して立ち上 がる	背面 指揮側・木葉底 内面 ハケメ後ナデ指揮	土師器・駆車器 7～8C
第9図 5	—	TP3 一箱	壺	— (3.0) (10.0)	やや粗い 白色粘子	良好	SYRS-2 にらみ赤褐色	底部	脚部は外反して立ち上がる	背面 ハケメ後ナデ指揮・指揮側・ 木葉底 内面 ハケメ後ナデ指揮・指揮側	土師器・駆車器 7～8C
第9図 6	5490	TP3	壺	(14.6) 4.5 (6.2)	白色・薄色粘子	良好	2SYRS-1 黄灰色	口縁部～連部	粘付高台	背面 四輪ナデ・底部水切底 内面 四輪ナデ	酒器器 11C

### 第3節 史跡内容確認調査（興国寺城跡）

所在地

沼津市根古屋字赤池 126-3 外

調査面積

562m<sup>2</sup>

調査期間

平成30年2月5日～平成30年3月27日

調査原因

史跡整備

調査の概要

確認調査は、伝西櫓台、北曲輪、清水曲輪を対象に、トレーニングを設定し、重機及び人力による掘り下げを行った。

調査の結果

縄文時代～古墳時代及び興国寺城に伴う中世の遺構・遺物が確認された。北曲輪では弥生時代・古墳

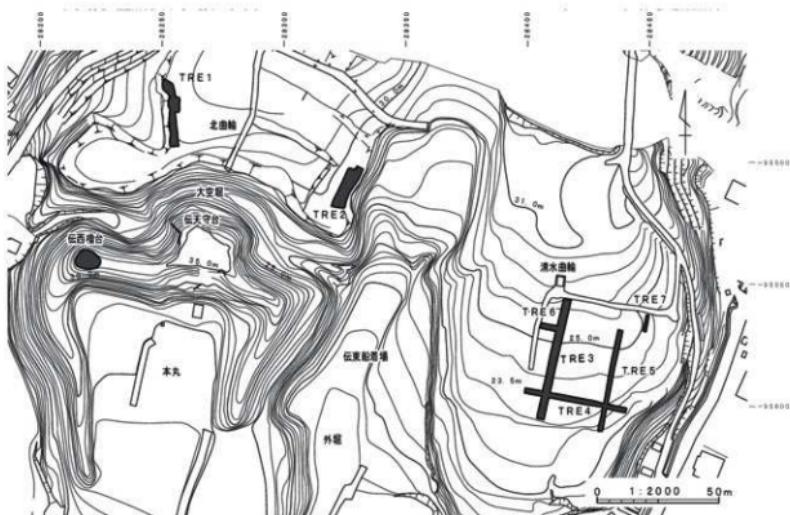
時代の遺構・遺物が出土している。清水曲輪では縄文時代～古墳時代の遺構・遺物が出土しており、根古屋清水遺跡に伴うものと推測される。

伝西櫓台の調査は、土層観察ベルトを設定して掘削を行った。地表面から0.1～0.2m下に40cm前後の礫を方形に配置し、その内側には10cm前後の亜円礫が充填されている様子が確認された。

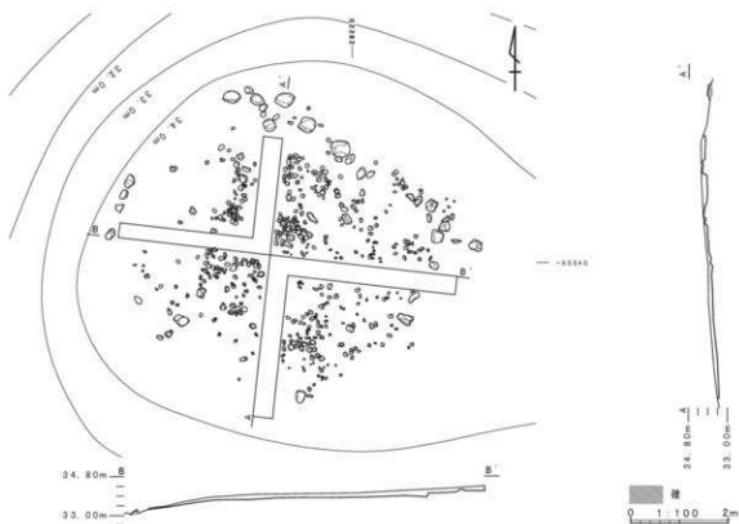
北曲輪の調査はトレーニングを2か所設定した。トレーニング1の北側で検出されたSD12の覆土からは、弥生時代中期の壺（第18図-1）が出土しており、近隣で行われた過年度の調査成果も考慮すると、



第10図 興国寺城跡調査地位置図



第11図 興国寺城跡トレーニング配置図



第 12 図 興國寺城跡伝西櫓台平面図・断面図

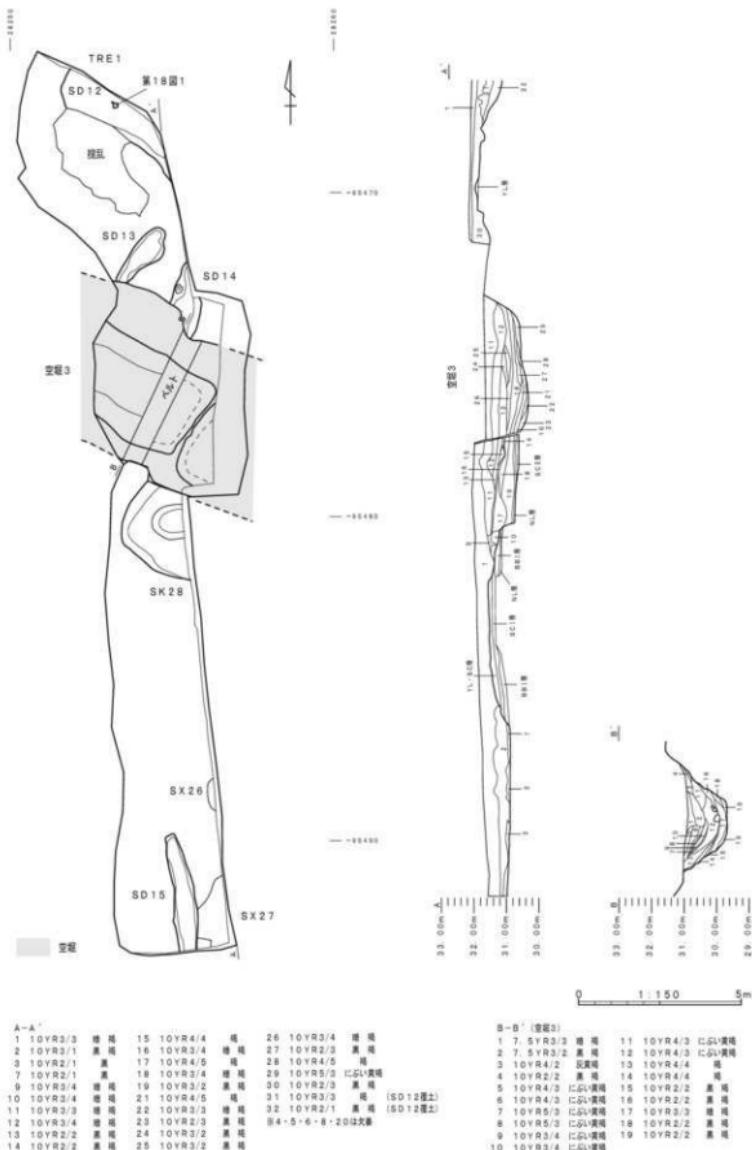
SD12 は方形周溝墓の一部である可能性がある。また、興國寺城段階の遺構として障子堀と想定される竪が検出されたが、平成 30 年度に追加調査を行っていることから、その成果と併せて検討し、改めて報告する。

清水曲輪の調査は、興國寺城段階の遺構確認を目的としてトレーナーを設定したが溝状遺構（SD 1～3）を除き、中世以降の明確な遺構検出が無かったため、一部を除き平面確認にとどめ、第 15 図では掘削調査を行ったものについて遺構名を明記した。なお、住居址とした SB1・SB2 の重複関係は明確ではないが、SB1 では球頭の駿東甕が出土し、SB2 では袖石を有するカマドを検出している。なお、駿東甕については、養生を施し現地に保存した。

遺物は第 1 層から第 2 層で 100 点を超える土器片が出土しており、各地点の主なものについて図示した。弥生時代後期～古墳時代前期のものが大半を占めるが、縄文時代中期後葉や弥生時代中期の土器、15 世紀半ばの擂鉢なども出土している。

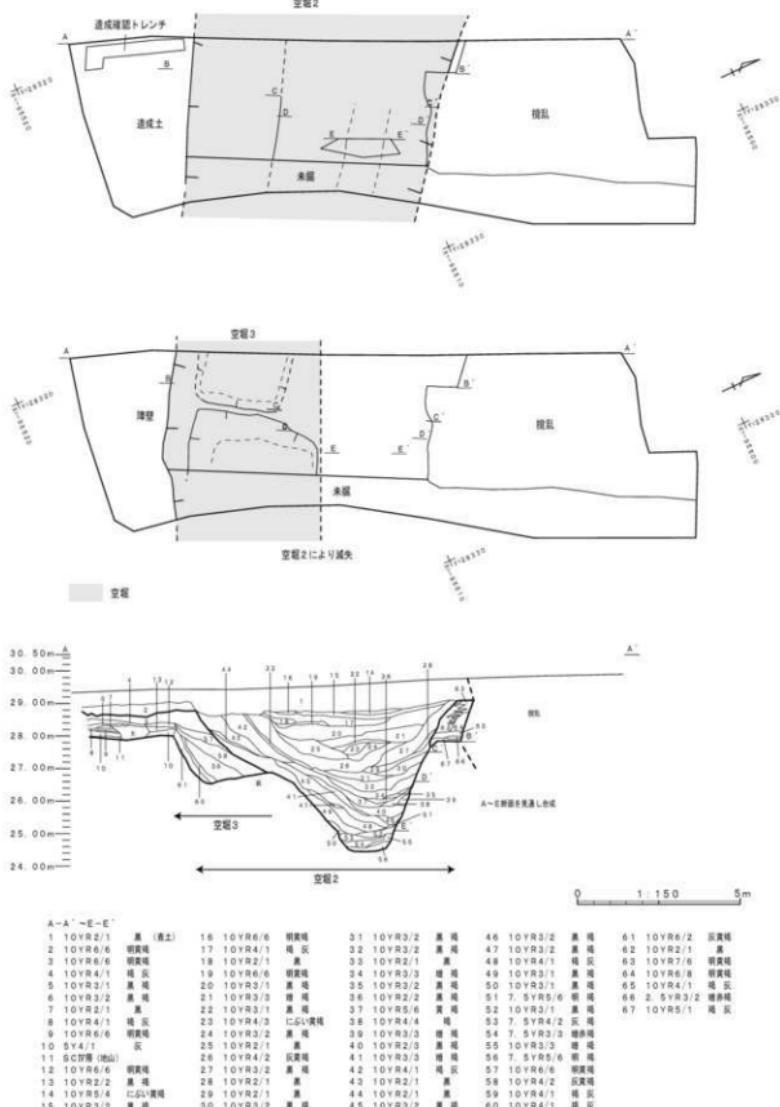
1～14 は北曲輪から出土したものである。1 は弥生時代中期の長頸壺で、赤彩が施されている。2～9 はかわらけで、4 は外面に二次焼成を受けている。10 は中世の貿易陶磁の染付皿である。11～13 は瀬戸・美濃製品で、11 は丸皿（端反皿？）、12 は擂鉢、13 は小鉢である。14 は常滑の甕である。

15～48 は清水曲輪から出土したものである。15～22 は縄文時代中期後葉の曾利 II～III 式段階である。23 は脣部に縄文を施したもので、24 は縄文土器と思われるものの明確な時期等は不明である。25 は弥生時代中期後半、26～32、34～37 は弥生時代後期に比定される。32 は高環の口縁部で、器形から西遠江系の可能性がある。33 は弥生時代終末期の壺の口縁部である。38 は弥生時代後期から古墳時代前期にかけての台付甕の脚台部である。39～41 は古墳時代前期の土師器である。42・43 は高環の脚部である。44・45 は 7～8 世紀の駿東甕の口縁部である。46 は敲石である。47・48 は 15 世紀後半の擂鉢の一部である。

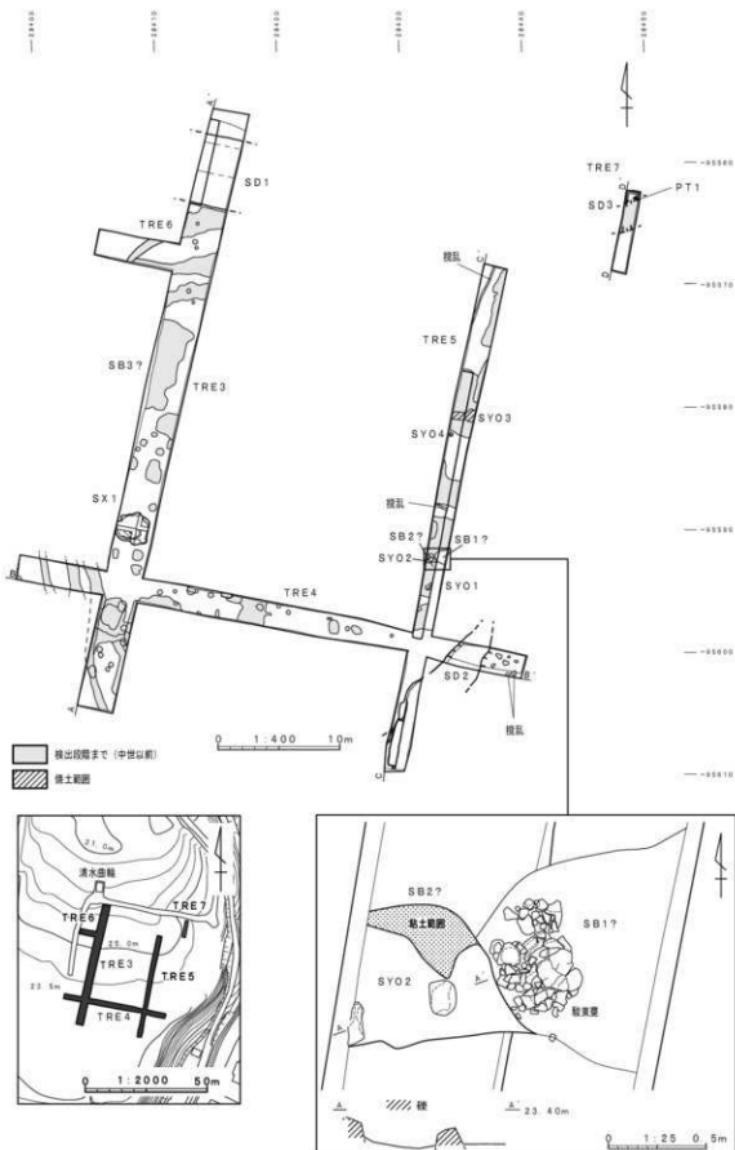


第13図 興國寺城跡北曲輪トレンチ1平面図・断面図

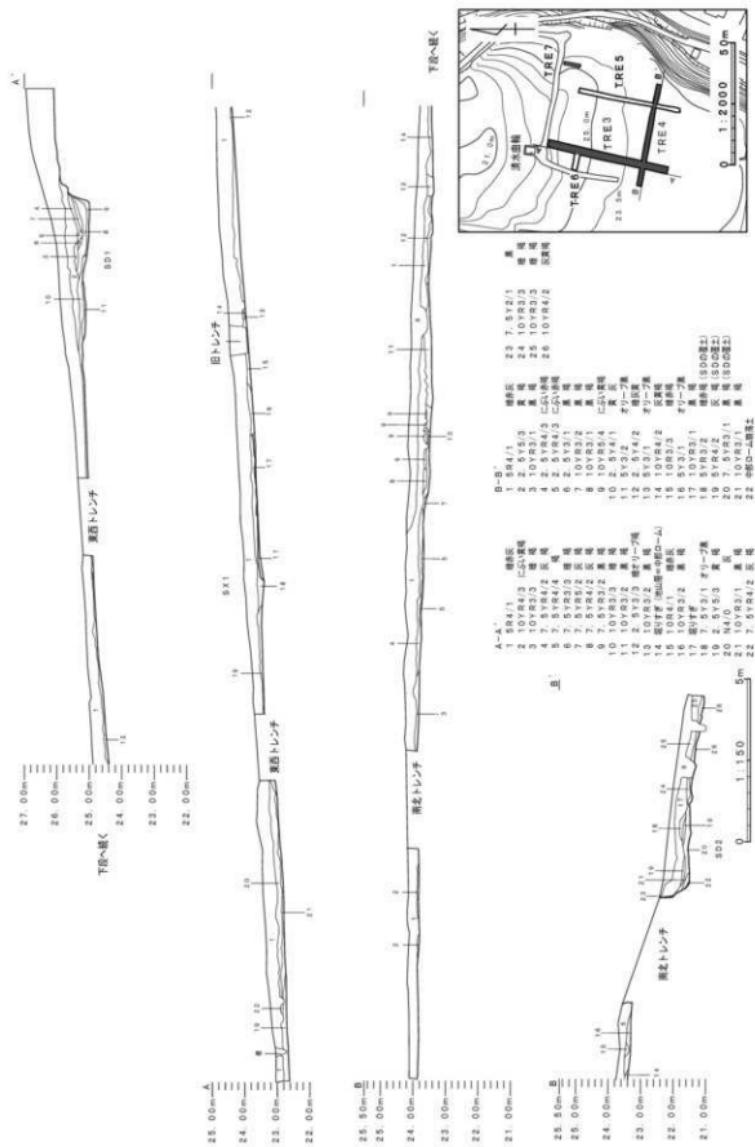
図版2 TRE2



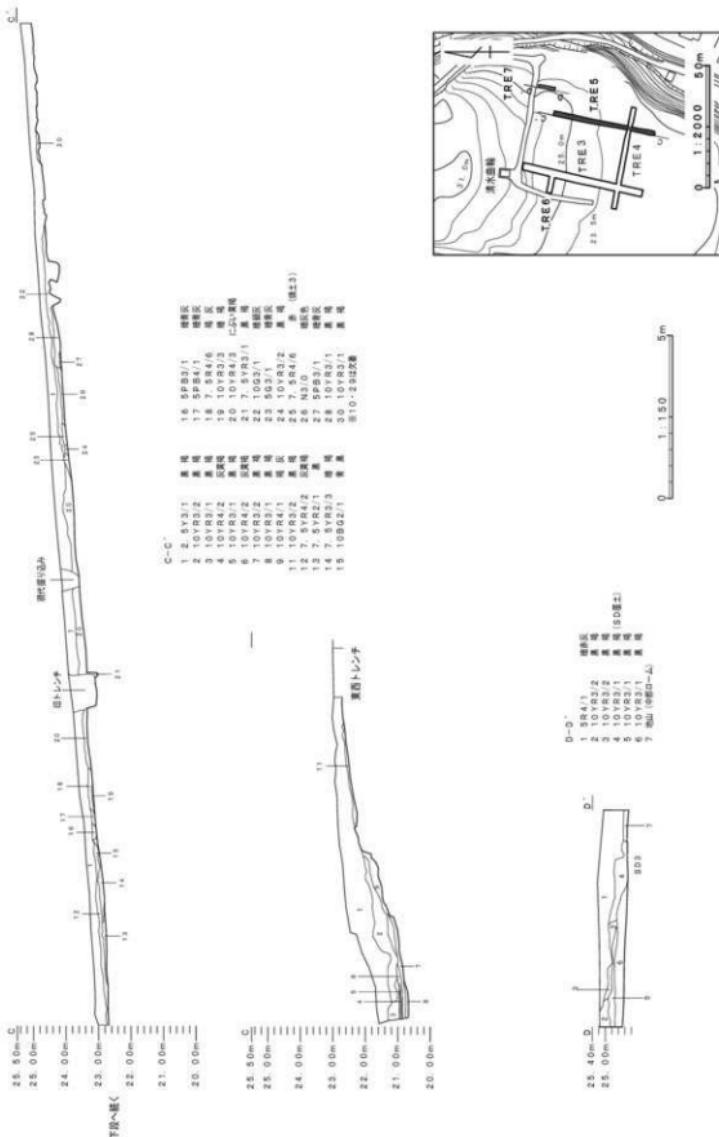
第14図 興國寺城跡北曲輪トレンチ2平面図・断面図



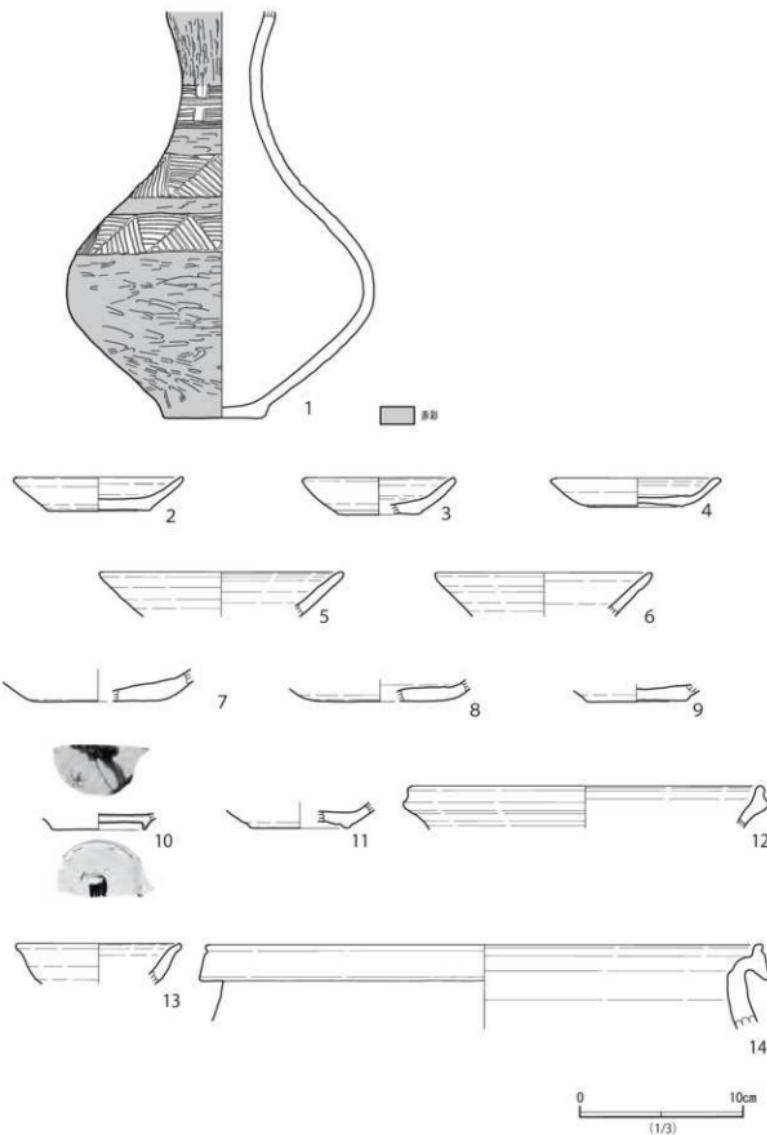
第15図 興國寺城跡清水曲輪トレンチ平面図



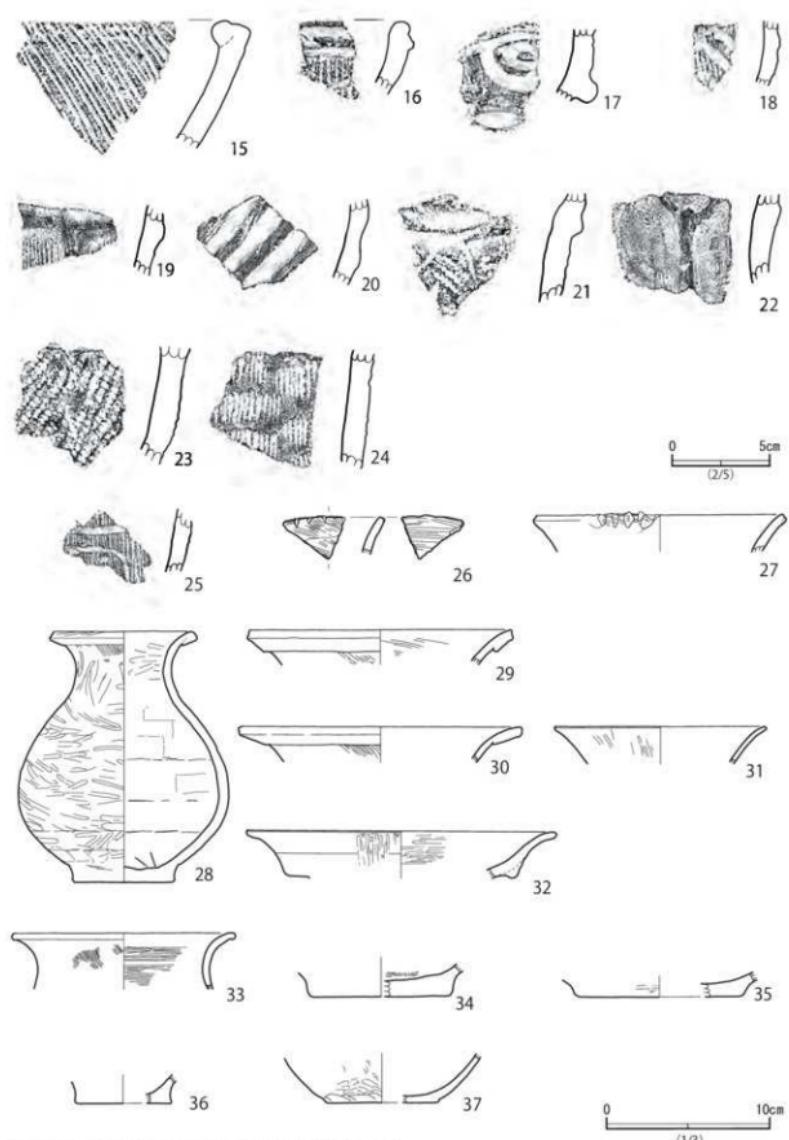
第 16 図 興國寺城跡清水曲輪トレンチ断面図（1）



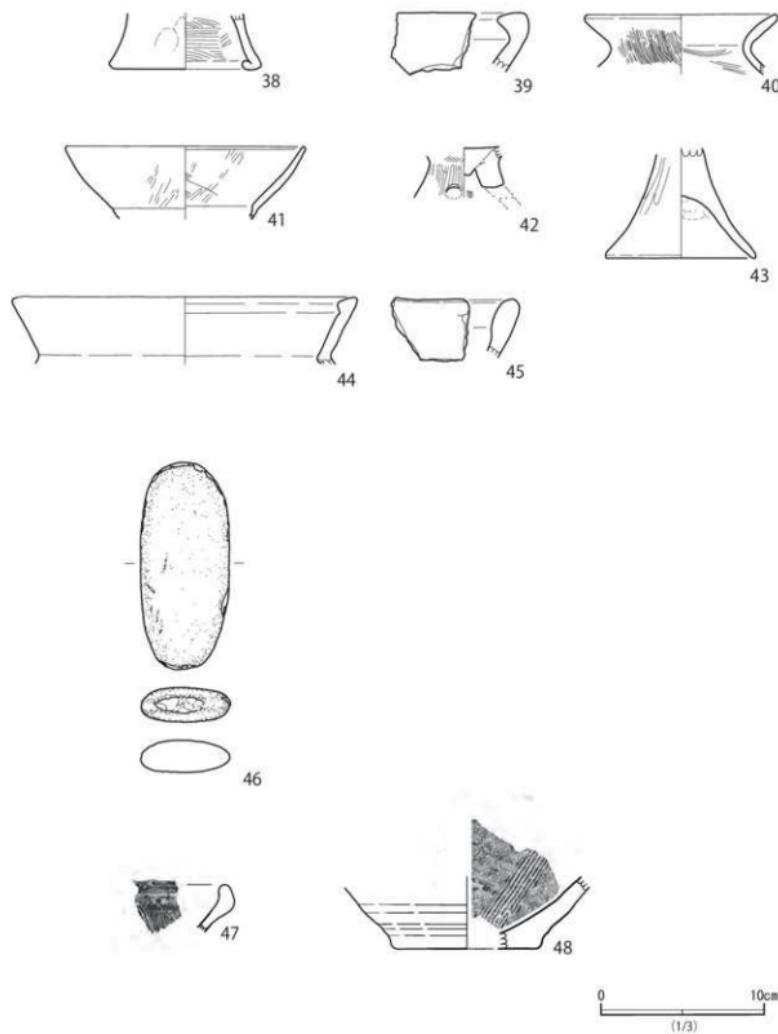
第17図 興國寺城跡清水曲輪トレンチ断面図（2）



第 18 図 興國寺城跡北曲輪出土遺物実測図



第19図 興國寺城跡清水曲輪出土遺物実測図（1）



第 20 図 興國寺跡清水曲輪出土遺物実測図（2）

第3表 興國寺城跡出土遺物観察表（1）

## 縄文土器

器物 番号	遺物 番号	出土 地點	土器形式	層位	時期	土	種類	保存部位	色調	備考
第19回 15	917	清水白繩 TR4	雷利Ⅱ～Ⅲ	選土	中期後葉	白色粒子 黒色合む	深鉢	口縁部	SYRA/2 にない赤褐色	
第19回 16	677	清水白繩 TR5	雷利Ⅱ～Ⅲ	選土	中期後葉	白色・黒色粒子 黒色合む	深鉢	口縁部	2SYRS/4 にない赤褐色	
第19回 17	1080	清水白繩 TR5	雷利Ⅲ	選土	中期後葉	白色粒子 黒色合む	深鉢	底部	2SYRA/3 にない赤褐色	
第19回 18	678	清水白繩 TR5	雷利Ⅱ～Ⅲ	選土	中期後葉	白色粒子 黒色合む	深鉢	底部	2SYRA/2 赤褐色	
第19回 19	512	清水白繩 TR5	雷利Ⅲ	選土	中期後葉	白色粒子 黒色合む	深鉢	底部	2SYRA/2 赤褐色	
第19回 20	372	清水白繩 TR5	雷利Ⅱ～Ⅲ	選土	中期後葉	白色粒子 黒色合む	深鉢	底部	2SYRA/2 赤褐色	
第19回 21	580	清水白繩 TR4	雷利Ⅱ～Ⅲ	選土	中期後葉	白色粒子 黒色合む	深鉢	底部	2SYRS/4 にない赤褐色	
第19回 22	609	清水白繩 TR5	雷利Ⅲ	選土	中期後葉	白色粒子 黒色合む	深鉢	底部	10RA/2 灰赤色	
第19回 23	493	清水白繩 TR5	不明	選土	中期	白色・灰色粒子	深鉢	底部	SYRA/2 灰褐色	
第19回 24	1900	清水白繩 TR5	不明	選土	不明	白色・灰色・赤色粒子	—	底部	SYRS/4 にない赤褐色	

## 弥生土器・土師器（1）

器物 番号	遺物 番号	出土 地點	種類	口部 削面 底面	胎土	構成	色調	保存部位	形態の特徴	調査	備考
第19回 1	1959 1962 1960	北堀内 SD12	壺	— (25.5) 6.2	やや細い 白色・黒色 赤色粒子	良好	SYRS/3 にない赤褐色	縦縫一部	縦縫部 平道の底部から内窓して立ち上がる。 縫隙がびがれる。縫隙中央に最大径を 有する。	外窓 縦縫部内壁へうが牛 縫隙部縫隙文 下縫隙部口付 赤茶	弥生中期
第19回 25	1116	清水白繩 TR5	壺	— — —	やや細い 白色・黒色 赤色小破	良好	SYRA/2 赤褐色	底部	縦縫部片	外窓 縫隙ハケメ後注縫を抱す 内窓 ナ子	弥生中期
第19回 26	226	清水白繩 TR5	壺	— — —	やや細い 白色・黒色粒子	良好	10HRS/2 にない赤褐色	口縫部	口縫部に凹み目あり	内窓 ハケメ 縫性強	弥生後期
第19回 27	1076	清水白繩 TR5	壺	(15.2) — —	やや細い 白色・黒色 赤色粒子	良好	2SYRS/4 にない赤褐色	口縫部	口縫部に凹み目あり	外窓 ナ子 縫隙部ハケメ 内窓 ナ子縫隙	弥生後期
第19回 28	517	清水白繩 TR5	壺	(9.0) 15.4 5.8	やや細い 白色・黒色 赤色粒子	良好	SYRS/3 にない赤褐色	口縫部～底部	口口部 突起口縫 縫隙部から内窓して立ち上がる。 縫隙部口付に最大径を有する。	外窓 ハケメ牛 縫隙部縫隙文 ナデ ケズリ縫隙 縫底直	弥生後期
第19回 29	1133	清水白繩 TR5	壺	(16.2)	やや細い 白色・黒色 赤色粒子	良好	SYRS/4 にない赤褐色	口縫部	口口部底端 突起口縫	外窓 ハハメ 内窓 ハハメ	弥生後期
第19回 30	355	清水白繩 TR5	壺	(17.0)	やや細い 白色・黒色 赤色粒子	良好	SYRS/4 にない赤褐色	口縫部	口口部底端 突起口縫	外窓 ハハメ 内窓 ナ子	弥生後期
第19回 31	1119	清水白繩 TR5	壺	(18.0)	やや細い 白色・黒色 赤色粒子	良好	SYRS/4 にない赤褐色	口縫部	口縫部片 縫隙部	外窓 緋田土牛 内窓 ナデ	弥生後期
第19回 32	—	清水白繩 TR5	壺	(19.0)	やや細い 白色・黒色 赤色粒子	良好	SYRS/4 にない赤褐色	片部	口縫部に凹みする。环状下位に断面 が三角形の特徴を有する。	外窓 緯子一丁縫方向北ガ牛 内窓 緯子牛	西造山 弥生後期
第19回 33	230	清水白繩 TR5	壺	(13.7)	やや細い 白色・黒色 赤色粒子	良好	2SYRS/4 赤褐色	口縫部	口縫部は外反して立ち上がる	外窓 ハケメ 内窓 ハケメ後口ナデ	弥生末期 大系式土器
第19回 34	1065	清水白繩 TR5	壺	(3.4)	やや細い 白色・黒色 赤色粒子	良好	SYRS/4 にない赤褐色	底部	平道の底部から縫隙部は内窓する 縫隙部下端部を取扱している	外窓 ナ子調整 内窓 ハハメ	弥生後期
第19回 35	223	清水白繩 TR5	壺	(10.2)	やや細い 白色・黒色 赤色粒子	良好	SYRS/4 にない赤褐色	底部	平道の底部から縫隙部は外傾して立ち上 がる	外窓 ハケメ 内窓 ハハメ	弥生後期
第19回 36	383	清水白繩 TR5	壺?	(6.0)	やや細い 白色・黒色 赤色粒子	良好	10HRS/2 にない赤褐色	底部	縫隙部は外反して立ち上がる	外窓 ハハメナ子調整 内窓 ナ子調整	弥生後期
第19回 37	610	清水白繩 TR5	壺	— (6.6)	やや細い 白色・黒色 赤色粒子	良好	2SYRS/4 赤褐色	底部	平道の底部から縫隙部は内窓して立ち上 がる	外窓 ハラミ牛 内窓 ハハメ	弥生後期
第20回 38	221	清水白繩 TR4	台付壺	— (9.4)	やや 白色・赤色 赤色粒子	やや 不良	SYRS/1 底部色	台付部	縫隙部はやや外反して開き。縫隙部は内側 に折り返す	外窓 ナ子調整 内窓 ハハメ	弥生後期～ 古墳前期？

第4表 興國寺城跡出土遺物観察表（2）

## 弥生土器・土師器（2）

図面 番号	遺物 番号	出土地 点名	基様	口径 断面 直径	胎土	焼成	色調	保存部位	形態の特徴	調整	備考
第 20 図 38	163	清水田跡 TRES	壺?	—	やや細い 白色・灰白色子	良	25YR0/3 に5%赤褐色	口縁部破片	口縁部破片 口縁部内側に三角形状に肥厚する	外蓋 内蓋 底面	古墳前期
第 20 図 40	1202	清水田跡 TRES	壺	(114)	中窄 白色・黑色・蓝色 —	良	25YR4/T 赤褐色	口縁部～底部	口縁部は、「C」の字状に肥厚する	外蓋 ハケメ後縁ナデ 内蓋 ハケメ後縁ナデ	古墳前期
第 20 図 41	179	清水田跡 TRES	壺	(144)	やや細 白色・黑色・蓝色 —	良	25YR4/4 に5%赤褐色	口縁部～全体	口縁部は外傾する	外蓋 口縁上半縁ナデ ハラミガキ 内蓋 口縁ハケメ後縁ナデ・ハラミガキ 底部後ナデ	古墳前期
第 20 図 42	261	清水田跡 TRES	萬坪	—	やや細 白色・黑色・蓝色 —	良	25YR4/4 に5%赤褐色	脚部	円窓が2か所残する 脚部は八の字状に聞く	外蓋 ハケメ後縁ナデ ハラミガキ 内蓋 ハケメ	古墳後期
第 20 図 43	1511	清水田跡 TRES	萬坪	—	やや細 白色・黑色・蓝色子	良	25YR0/6 明赤褐色	脚部	脚部は八の字状に聞く	外蓋 ヘラミガキ 内蓋 脚部	古墳前期 内外蓋基底が剥離
第 20 図 44	1107	清水田跡 TRES	壺	(210)	やや細 白色・黑色・蓝色子	良好	25YR5/6 明赤褐色	口縁部	口縁部は肥厚する	外蓋 横ナデ 内蓋 横ナデ	駆東夏 7~8C
第 20 図 45	833	清水田跡 TRES	壺	—	やや細 黑色・白色子 底周	良好	25YR0/2 灰褐色	口縁部	口縁部破片 口縁部は肥厚する	外蓋 横ナデ 内蓋 灰褐色	駆東夏 7~8C

## 石器

図面 番号	遺物 番号	出土地点	基様	石材	磨耗	崩落	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
第 20 図 46	219	清水田跡 TRES	敲石	砂岩	表土	—	12.7	5.4	2.1	250	

## 中世

図面 番号	遺物 番号	出土地點	基様	口径 断面 直径	胎土	焼成	色調	保存	产地	瓦輪等	備考
第 10 図 2	1532	北曲輪 TRE1	かわらけ	(10.2) — (8.3)	2.1 — —	やや 不良	5YR0/8 橙色	口縁部～底部			土師質
第 10 図 3	1531	北曲輪 TRE1	かわらけ	(9.0) — (3.1)	2.2 — —	やや 不良	7.5YR5/4 に5%褐色	口縁部～底部			土師質
第 10 図 4	1542	北曲輪 TRE1	かわらけ	(8.8) — (3.8)	1.8 — —	やや 不良	2.5YR5/4 に5%赤褐色	口縁部～底部			外蓋缺損
第 10 図 5	1529	北曲輪 TRE1	かわらけ	(14.6) — —	— — —	やや 不良	5YR6/6 橙色	口縁部～底部			土師質
第 10 図 6	1588	北曲輪 TRE1	かわらけ	(13.1) — —	— — —	やや 不良	7.5YR6/4 橙色	口縁部～底部			土師質
第 10 図 7	1544	北曲輪 TRE1	かわらけ	— (7.8)	— —	やや 不良	7.5YR6/4 橙色	底部～底部			土師質
第 10 図 8	1522	北曲輪 TRE1	かわらけ	— (8.1)	— —	やや 不良	7.5YR6/4 橙色	底部～底部			土師質
第 10 図 9	1581	北曲輪 TRE1	かわらけ	— (8.2)	— —	やや 不良	7.5YR6/4 橙色	底部			土師質
第 10 図 10	735	北曲輪 TRE2	葉付瓦(鉢)	(3.8)	— —	表面	良好	10G7/3 明灰灰	底部	灰	實測陶器 H6 中一型
第 10 図 11	1574	北曲輪 TRE2	八重 (暗豆蓋)(8.1)	— —	— —	表面	良好	2.5YR7/2 灰褐色	底部～底部	窓戸美濃	陶器 大裏 1~2
第 10 図 12	1520	北曲輪 TRE2	漆鉢	(21.4) — —	— — —	— — —	— — —	NH-0 灰色	口縁部	窓戸美濃	漆 大裏 1
第 10 図 13	743	北曲輪 TRE2	小鉢	(10.0) — —	— — —	表面	良好	5YR7/1 灰色	口縁部～底部	窓戸美濃	陶器 古後尾・N7古
第 10 図 14	—	北曲輪 TRE2 沿岸	壺?	(21.8) — —	— — —	表面	良好	7.5YR4/1 褐色	口縁部	窓戸 6.5型式	
第 20 図 47	708	清水田跡 TRES	漆鉢	— —	— —	表面	良好	2.5YR5/2 灰褐色	口縁部破片	窓戸	陶器 吉澤井作繩模様 刀削頭
第 20 図 48	229	清水田跡 TRES	漆鉢	(4.2) (0.5)	— —	表面	良好	7.5YR5/1 灰褐色	底部～底部	窓戸	陶器 吉澤井作繩模様 刀削頭

#### 第4節 新貨物ターミナル及び調整池建設事業（桃里地区）

所在地

沼津市桃里 134-2

調査面積

64m<sup>2</sup>

調査期間

平成30年3月19日～平成30年3月29日

調査原因

新貨物ターミナル及び調整池建設事業

調査の概要

対象地は、新貨物ターミナル建設事業の資材搬入

用進入路築造予定地にあたる。中原遺跡に近接しており、遺物の散布が認められることから、試掘調査を実施した。

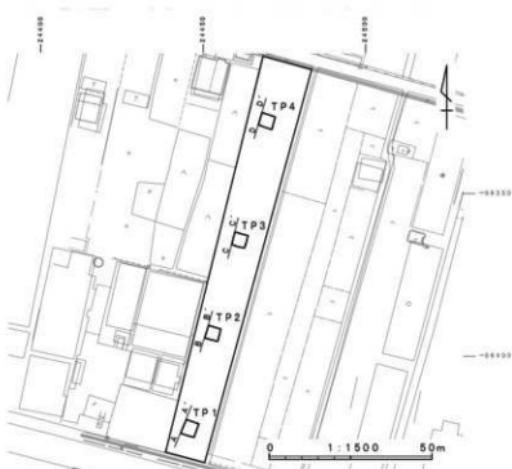
試掘調査は、対象地にテストピットを4か所設定し、重機による表土除去後、人力による掘り下げを行った。

調査の結果

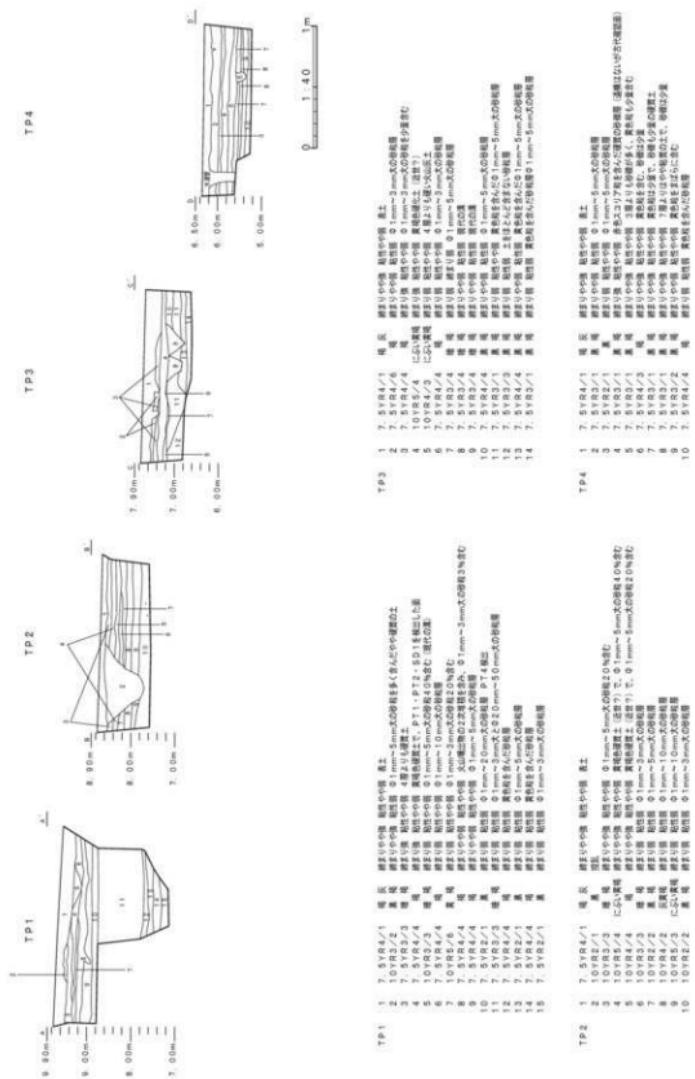
地表面から約0.4m下までは客土となっており、その中に土師器や近世陶磁器などの遺物が混入している状態であった。客土以下の層は、中原遺跡と同じく富士川を起源とする砂礫層となっており、いずれのテストピットからも遺構遺物は確認されなかったことから、埋蔵文化財包蔵地外と判断した。



第21図 桃里地区調査位置図



第22図 桃里地区テストピット配置図



第 23 図 桃里地区テストピット断面図

写 真 図 版

P.L. 1



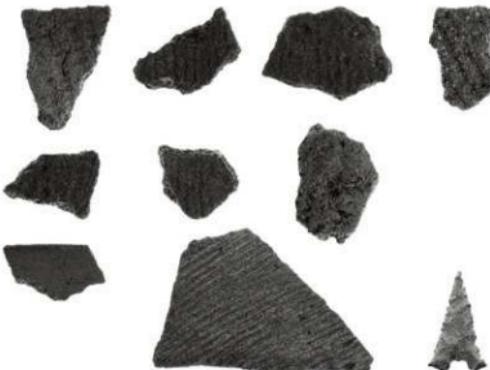
岡宮北土地区画整理事業地内  
テストピット2（南より）



岡宮北土地区画整理事業地内  
テストピット8（南より）



岡宮北土地区画整理事業地内  
テストピット10（南より）



岡宮北土地区画整理事業地内  
出土遺物



中原遺跡トレンチ3（南より）



中原遺跡出土遺物



興國寺城跡伝西櫓台（真上より）



興國寺城跡北曲輪トレンチ  
(北西より)



興國寺城跡清水曲輪トレンチ  
(南より)



興國寺城跡北曲輪出土遺物

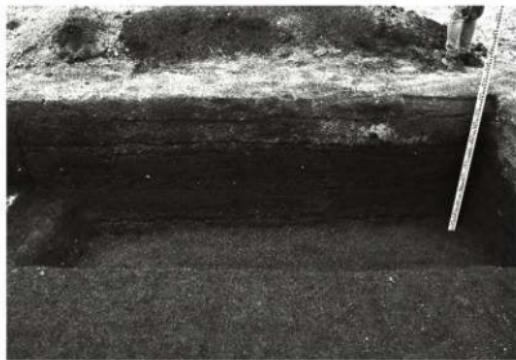


興國寺城跡清水曲輪出土遺物（1）

P.L. 5



興國寺城跡清水曲輪出土遺物（2）



桃里地区  
テストピット4（東より）

## 報告書抄録

ふりがな	ぬまづしないいせきはくつちょうさほうこくしょ2
書名	沼津市内遺跡発掘調査報告書2
副書名	
巻次	
シリーズ名	沼津市文化財調査報告書
シリーズ番号	第120集
編著者名	谷口哲也 矢田晃代
編集機関	沼津市教育委員会
所在地	〒410-8601 静岡県沼津市御幸町16番1号 TEL055-931-2500㈹
市町村コード	22203
発行年月日	西暦 2020年2月28日

調査 年度	所収 番号	両收遺跡名 地区名		所在地	調査期間	主な遺構
		市遺跡番号	調査内容			
H29	第Ⅱ章 第1節	沼津市明宮878.7外 大泉寺頃遺跡・山神上遺跡		北緯 東經	2017.5.17～2017.7.31	主な時代
		35° 07' 37"	138° 51' 58"	(大泉寺頃遺跡) 縄文・奈良・平安 (山神上遺跡) 奈良・平安		主な遺物
		144-375	確認調査	76m		縄文土器・土師器・須恵器・石器 散在地・集落跡
H29	第Ⅱ章 第2節	沼津市一本松253.1外 中原道路		35° 07' 45"	138° 46' 41"	2018.1.15～2018.3.16
		201	確認調査	228m		弥生・古墳・奈良・平安 弥生土器・土師器・須恵器 集落跡 新設物ターミナル及び調整池建設事業
H29	第Ⅱ章 第3節	沼津市相模原赤池126-3外 奥山寺城跡		35° 08' 22"	138° 48' 22"	2018.2.5～2018.3.27
		35	内容確認調査	562m		城郭・集落跡 縄文・土器 縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・陶器
H29	第Ⅱ章 第4節	沼津市横里134-2 新設物ターミナル及び 調整池建設事業（桃里地区）		35° 07' 52"	138° 46' 6"	2018.3.19～2018.3.29
			試掘調査	64m		

沼津市文化財調査報告書 第120集  
**沼津市内遺跡発掘調査報告書2**

令和2年2月21日 印刷  
令和2年2月28日 発行

編集／沼津市教育委員会  
発行／沼津市教育委員会  
沼津市御幸町16番1号  
TEL (055) 931-2500㈹  
印刷／みどり美術印刷株式会社